

一般質問

一般質問とは、市の一般事務や市が抱える課題等について市長などにたずねるもので、**9月定例会では18人の議員が一般質問を行いました。**ここでは広報委員会が抜粋し、事項別に整理した一部の内容を掲載しています。

一般質問の全文は、11月下旬作成予定の本会議録を図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」でご覧ください。

小中一貫教育について

小中一貫教育について、次のような質問が行われました。

質問：本市における小中一貫教育は、どのような考え方で進めるのか。

教育長：本市が目指しているものは、まったく新しい特別な教育ではなく、現在の小中連携の取り組みの延長線上にあるものと考えています。

質問：本市の教育の一番基本的な考え方は、かまくら教育プランの目標を達成するために、小中連携が重要と考えているのか。

教育長：かまくら教育プランの中には小中連携という言葉

久坂 久	「小中一貫教育について」「事業仕分けについて」
小田嶋 敏浩	「平和行政について」「武田薬品工業株式会社との環境保全に関する協定について」
伊東 正博	「人事管理における職場環境の改善について」「まちづくりに係わる条例の整備について」
中澤 克之	「防災について」「安全・安心な街づくりについて」「地域振興について」
渡辺 隆	「小中一貫教育について」「学校の環境整備について」
納所 輝次	「教育行政の諸課題について」○市立小中学校の道德教育等のあり方について ○中1ギャップの解消と小中一貫教育について
石川 寿美	「市長の政治姿勢について」「危機管理」「ゲリラ豪雨対策について」
池田 実	「道路整備について」「公共下水道について」「ごみ処理行政について（バイオマスエネルギー回収施設を中心に）」
高橋 浩司	「IT化促進について」
太田 治代	「事業仕分けの検証」「実験動物焼却炉について」
大石 和久	「ゴミ行政について」
千	「鎌倉市の事業仕分けについて」○なぜ今年は仕分けが必要だったのか ○仕分けの目的について ○仕分けした事業はなぜどうして選んだのか ○この仕分け人で適切なのか ○仕分け人の差別的文言 ○仕分け人のアンケート調査について
安川 健人	「火花大会について」「海水浴場について」「ごみ問題について」「NPOについて」「実験動物焼却炉について」
飯野 眞毅	「ごみ行政について」
山田 直人	「地域医療・福祉連携について」「政策・施策の諸課題について」○障害者就労（定着）支援の取り組み ○地上デジタル放送の取り組み ○ユニバーサルデザインの取り組み
西岡 幸子	「市民相談の現状と課題について」○健康相談について ○メンタルヘルスカウンセリングについて ○子どもと家庭の相談について ○高齢者の相談について
早稲田 夕季	「まちづくりの課題について」
吉岡 和江	「市民が元気で安心してくらすせるまちづくりを」○市民健康づくりについて ○高次脳機能障害の支援について ○産業振興について

葉は出てこないが、市内では既に行っているところはある。六、七年前から行っている。これに軌道に乗せようというのが今回の連携型の小中一貫教育だ。

質問：現在の小中連携の取り組みと、これから導入する小中一貫教育における小中連携との違いがわかりにくいがどうか。

部長：全国的には、同じ施設・敷地の中で一体型の一貫教育や、中学校区での連携を深めながら地域の子ども達を育てる施設分離型の一貫教育がある。本市は後者

だが、子どもたちの育ちと学びの連続性を保障するという観点から、今まで別々に考えられていた小・中学校の教育課程等について、中学校区のニーズ等に応じて、連続性を意識した取り組みを行っているというところも

質問：本市では、小中一貫教育検討委員会が設置され、小中一貫教育の方向性や実施に向けた課題と対応策がまとめられていると聞いているが、小中一貫教育の意義を、現場の教職員にどう理解してもらおうのか。

部長：現在、検討委員会では、基本方針の中間まとめを作成した段階だ。今後、中間まとめを全教職員に配付

し、意見を聞きながら最終的な基本方針を作成したいと考えている。

質問：なるべく計画段階から多くの教職員がかかわる具体的な仕組みづくりを行っていく必要があると思うが、どうか。

部長：校長会、教頭会の代表とともに一般の教職員も入ってもらって検討委員会を進めている。

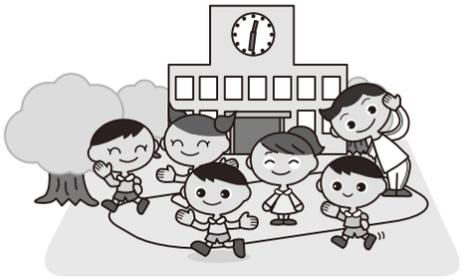
質問：小中一貫教育を、本市における教育の取り組みの中でどのように位置づけて推進していくのか。

教育長：新しい学習指導要領の実施とともに九年間の子どもたちの育ちを保障していくという小中一貫教育は、教育委員会として重要な施策の一つととらえている。

質問：市長として、今後のような支援をこの一貫教育について行っていくのか。

市長：教育長の答弁にあった、重要な取り組みだという考えや、今回の教育委員会の決定については十分尊重していきたいと考えている。また、取り組みを進めていく中で必要な支援があれば教育委員会と協議しながら進めていきたい。

(教育総務部)



ごみ処理行政について

ごみ処理行政について、次のような視点から質問が行われました。

「山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設について」

質問：今定例会冒頭で、市長から、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の整備について検討するため、三カ月の時間がほしいとの報告があった。市長就任から十カ月の間、これまで市長はどのような検討を行ってきたのか。

市長：技術面を中心に、安定的な稼働ができるかという観点から他市施設の視察などを行ったほか、バイオ技術の専門家にも話を伺った。財政的な面についても、さまざまなケースを想定して比較検討を行ってきた。

質問：当然、バイオマスエネルギー回収施設に代わる代替案についても検討してきたと思うが、その検討結果はどうか。

市長：それを今定例会までにお示ししたいという思いでいたが、現時点で皆さんに理解・納得の得られるものをお示しできないため、今回、三カ月のお時間を改めていただきたいという報告をさせていただいた。

質問：時間的な流れから見て、この三カ月は非常に重要な期間であると考え、施設整備に関して、今年度、環境部と都市整備部の両部に予算計上されている

が、都市整備部の都市計画決定に係る申請図書等作成業務などは執行が凍結されていると聞く。三カ月先延ばしにすることの影響について聞きたい。

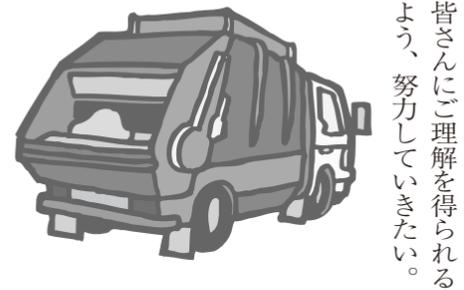
部長：発注が遅れることでさまざまな調整も必要となる。都市計画決定等の事業認可は半年から一年近く遅れるのではないかと考えている。

市長：さらに言えば地域・市民の方々にも大きな影響を及ぼすことは十分承知している。しかしながら三カ月お時間をいただき、しっかりと結論を出すために全力で取り組んでいきたい。

質問：今回の問題を通して、市長と原局とが一体になっておらず、ちぐはぐな印象を受けた。市長と行政とが一体となり、住民の福祉向上を図ることが、効率的な職務遂行、ひいては市民サービスの向上にもつながる。

市長はこの点についてどうお考えか。

市長：原局としっかりと調整をし、力を合わせて市民の皆さんにご理解を得られるよう、努力していきたい。



【ごみの減量化について】

質問：3Rにおいてリサイクルやリユースは、リデュース（発生抑制）のための手段と考える。リサイクル率ナンパーワンについては、リサイクルに対する意識の向上につながると思うが、市民がそのことに満足してしまえば、リデュースの大切さが忘れられてしまうのではないかと。

部長：必ずしもナンパーワンということだけを宣伝しているわけではなく、市民の方々に感謝の気持ちやリデュースの減量化に努力していることに張り合いを持っていただくという趣旨で広報している。またこの話題について広報する場合は、必ず3Rに関する記事も併せて掲載し、啓発を図っている。

質問：市のごみ処理基本計画の中でも、ライフスタイルや事業活動の見直しへの積極的な取り組みがうたわれているが、市として今後、どういったことを啓発していくつもりか。

部長：家庭にごみを持ち込まない、出さないというライフスタイルについて啓発するため、昨年度は廃棄物減量化等推進員との協働での減量化・資源化キャンペーン、小学校や幼稚園、保育園での環境教育、自治・町内会への出前説明会等を実施した。今後もごみの減量化・資源化について「いつでも、どこでも、何度でも」をキャッチフレーズに啓発を実施していきたい。

(環境部、都市整備部)

緊急質問

九月二十四日の最終本会議において、四名の議員から、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備事業に関連し、一般質問で市長の答弁と組織編成（人事異動）の方向性が相反しているとの理由から、左記の緊急質問が行われました。

- 1 大石和久議員 「山崎バイオマスエネルギー回収施設整備事業に関連して」
- 2 三宅真里議員 「山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の整備に関連して」
- 3 吉岡和江議員 「環境部に係る人事異動について」
- 4 池田 実議員 「バイオマスエネルギー回収施設整備事業に関連して」

用語の解説

※印の用語について解説します。

山崎浄化センター バイオマスエネルギー回収施設

循環型社会の形成・推進を目指すため、燃やすごみの約40%を占める生ごみを、下水汚泥と混合して資源化（バイオガス化）し、有効活用することを目的に山崎浄化センター敷地内に計画された施設。

なお、バイオマスとは、生ごみ、植木剪定材、木材のくず、下水汚泥、家畜の排せつ物など、動物や植物から発生する有機性資源で、化石資源を除いたものをいい、その語源は、バイオ（生物）マス（集まり）といわれている。

松尾市長のマニフェストには、施設整備を一から見直す旨が掲げられており、その是非をめぐって議会で活発な議論が行っている。

(環境部、都市整備部)